

デイナイトケア自主制作映画 「夢どっ宝」公開上映会



「夢実現」題材に映画

【沖縄】沖縄市の新垣病院に通う精神障がい者らが自分の夢を語り、実現させるための短編ドキュメンタリー映画「夢どっ宝」を制作した。映画の上映会が11日、同院であり、家族や友人ら約100人が集まり、訪れた。通所者で監督、脚本、編集、アニメ制作を務めた古謝哲也さん(44)は「精神障がい者に限ったイメージを持つ人も多い。映画を通して障がい者が暮らしやすい社会に変える助けになればいい」と語る。

映画は「デイナイトケア」通所者で昨年8月に設立した「映画同好会」が約1月かけて制作した。監督、脚本、プロデューサーなど、通所者ら30人が心をこめていた「かつての夢」を語り、夢実現へ向け通所者が動き出す内容だ。

人気男性アイドルに会いたいという伊礼登枝さん(51)は映画の中で、アイルのお面を着けた同院職員と「白デー」を楽しんだ。伊礼さんは上映会の開催会で「ずてきなケースワーク1さんがアイル役をしてくれて、満足している」と振り返った。

古謝さんは高校生のころ、漫遊家を自撮りして上京しようと都府空想にいたころ、統合失調症理由に入院に止められた経験を持つ。夢を心に秘めながら、大工クリンクなどのは仕事を転々とした。現在は電子書籍刊や専門誌に漫遊の連載を持つなど、精力的に活動している。

同院で「デイナイトケア」を担当する自取直字課長は「患者の中には周囲から夢を否定され、挫折を経験した人もいる。映画を通して患者自身が自分を認め、自信を持つきっかけになった」と語る。

自身も統合失調症を持つ多和田明美さん(42)は「那覇市IIは映画を見て「病気がなくなって全てが終わった」と思ったけれど、夢を自分の生きる糧にしたいと思う」と語った。

匿名の通り「夢は宝と語る古謝さん。上映後は何らかの形で表現することを持ちたい。皆さんも夢を持ち続けたい」と語り掛けた。映画は4月に東京で開かれた第4回ラブラストリー映画祭に出品され、応募50点から上位8点に選ばれた。今後も県内で上映会を数回開く予定だ。(大城和寛子)

古酒亮盛の傑作
海ぶね
868 1470

平成 25 年5月 12 日(日)琉球新報の記事

URL → <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206468-storytopic-1.html>

東京で行われたラブストーリー映画祭上映(4月7日)を受けて、当院コミュニティホールにて上映会を実施しました。

テレビや新聞から情報を知り一般の方の参加もあり、90名の方が足を運んで下さりまずまずの反響でした。

上映終了後、映画製作に関わった同好会メンバーの座談会では、映画作りで楽しかった出来事、苦労話など語っていただきました。夢をテーマにした意見交換では、入院患者さんからの「昔保母さんやっていて、ホールのピアノを弾きたい」といった話題提供もあり急きよ実現してもらい『夢を叶える事』について意識する場面もありました。

「夢を持つことの大切さを学んだ」「感動した」などの感想や映画同好会への要望など、たくさんのご意見を頂きました。